ISSN 0388−5569
VOL. 14 No. 3
（通巻42号）
1994.2

Library News

山口大学附属図書館報

目次

紙魚（シミ）の嘆きは　畑地正憲 … 1
利用者教育に関して思うこと　吉野君子 … 2
雑誌新規購読リスト（1994年）…… 5
本館ベスト・リーディングス…… 9
寄贈図書 …… 10
人事異動 …… 11
日　誌 …… 12

紙魚（シミ）の嘆きは

畑地正憲

古い書物、特に漢籍を捲っていると、銀粉に光る小虫に出会うことがあります。すばしこく逃げ回る小虫を慌てて捻りつぶすと、ネットリとした銀粉が線状に残ります。この小虫を紙魚（シミ）と言います。紙魚は衣魚とも書きます。

シミは学名をCtenolepisma villosa と称し、日本でよく見掛けるシミはヤマトシミと命名しています。シミの動物学上の分類は、総尾目シミ科の昆虫に属し、体長は8〜10mmであり、全身が銀白色の鱗粉に覆われています。シミを虫メガネで拡大して観察すると、頭部に長短二対のヒゲ（触手）があり、全身は十二、三節に分かれ、一、二、三節に各々一対の足を持ち、末尾に三叉の尻尾（触手）があって、昆虫としての特色を確認することができます。シミ科の昆虫は、全世界で約200種類いるとされ、日本でも数種類が確認されています。ヤマトシミと同種のシミは、中国大陸・台湾・インドネシア・インドなどでも生存しています。シミが一番好むのは書籍であって、書籍の日本への導入が中国大陸からであったことより推察すると、日本のシミは大陸との文化交流に付随して密入国してきたものであると言えましょう。

シミは、紙魚・衣魚という名前が示すように、唐紙、和紙、糊付けの紙、人絹、スフなどの布を好物として食べており、シミの生存活動は、紙・布製品に食害を与えています。シミは、漉き紙である唐紙・和紙で製本した書籍を格好の生活拠点として、その紙面を食い漁っています。その食害によって文書記録の文字の消失と書籍の破損とを招来し、貴重な記録に多大な損壊を与えることがあります。このため、糸綴じの唐本・和本を大量に所蔵する図書館では、シミを退治するため、これらの本を消毒室へ送り込み、真空状態の中で強力な薬剤を使用して殺虫することがあります（山大附属図書館には方形棺大の小型消毒装置があり、担当係員が主に古文書・和装本等を年数回殺虫消毒している）。筆者の出身大学での経験では、この殺虫を「ガス室送り」と呼称し、このような書籍を大量に保管する研究室の助手であった筆者は、毎年夏季休暇中の一定期間に、防毒マスクを装着して一日一回の割合で実施していました。在外研究でアメリカの大学に滞在したときにも、書庫全体を密封して煙霧消毒を実施している場面に直面しました。しかし、密封状態の綴じ目に巣くったシミを根絶させることは至難の技でありまして、開放された紙面で黒褐色に変色した死骸を一冊当たり二、三匹見出すのが精一杯でした。また、殺虫効果が消失する頃には、未消毒の本からシミが移住し、一巡するころには同じ状況になり、シミとの鬼ごっこをしているようなものでした。

ただ、筆者にとってこのような経験は、糸綴じ本の取扱や補修法の習得に良い場となりました。

人気のない書庫は、薄暗く、ヒンヤリとしています。湿気が書籍を痛めるので、除湿・換気には十分な注意が払われています。シミにとって、暗く・乾燥ぎみな生活環境は、最も快適なものです。だから書籍が静かに安息している書庫は、シミにとって最適な安住の地であります。特に、貴重書として秘蔵されている書籍コーナは、シミの別天地となりやすいのです。この秘境を発見したシミは、他へ移住しようとはいたしません。秘境の管理・維持には、単に囲い込みを行い安心するだけでなく、細心の注意と努力が必要であり、その責務を負うものです。

シミの大敵は、安住の家の扉が開かれ、新鮮な空気に触れ、強い光に曝されることです。利用されることがない書籍の山は、シミ培養室のようなものです。重複しているため利用されない書籍のシミは、「我が世の春」を謳歌しているでしょう。シミを根絶することは至難なことでしょう。しかし、シミの安住の地を制限し、縮小することは可能です。昔から唐本・和本は定期的に虫干しする習慣があります。このことは、シミにとって安住の地から追い立てを喰う最も嫌悪な行為であります。人が本の虫になることは、シミにとっては望ましからぬことです。書庫が人気に包まれ、本の扉が開かれることは、シミにとっては大きな苦痛と悲痛な嘆きとを招きます。また、書庫が重複した書籍の単なる退蔵倉庫になってはならないでしょう。重複書籍は可能な限り廃棄処分することも必要でしょう(欧米の大学図書館でも定期的なキャンセリングが行われ、筆者は入手困難な書籍を非常な安価で購入したことがある)。この廃棄処分によって、書籍に組み込まれた知的集積が圧縮されるものでもないでしょう。何故なら、21世紀へ向けての図書館は、学部間、大学間、全国の図書館間における図書の相互利活用が飛躍的に発展すると考えられるからです。シミの嘆きは、図書館の書籍の喜びであり、図書利活用の光となると言っても過言ではないと思います。

(人文学部教授)

利用者教育に関して思うこと

図書館において「利用者教育」という言葉を使い始めたのがいつ頃からなのか、あまりさだかではないが、1964年に雑誌「医学図書館」の中に、この言葉が掲載されている。以後それぞれの館がそれぞれの方法で「教育」と言うよりは図書館及び図書館資料の有効利用等の指導を行ってきた。

しかし、近来ニューメディアの出現によって文献(情報)の検索方法が、従来の冊子による検索方法から大きく変わった事はいうまでもない。

わが医学部図書館においても、ニューメディア(オフライン)による情報検索の方法を取入れ、ユーザーに指導・助言しなければならなくなった。

我々図書館員にとってもニューメディアによる検索は初めての事であり、ユーザーよりも一歩さきに検索技術を習得する為にいろいろの努力をした。まずマニュアルを作った。そして、講習会の開催に備えてお互いが指導者とユーザーの立場に分かれ、交代しあって練習したものである。しかしその後、時には機器あるいはソフトのバージョンアップ等で機器操作上の変更があり、また、他の業務におわれて検索業務から遠ざかったりしていると細かな部分を忘れてしまったり、時には細部の技術的な部分でユーザーから「こうしたら、こう出来ましたよ」と我々にとっては新発見と思えることがらを聞かされた事もある。またダウンロードに関しては、ユーザー側のハードの機種の関係で、深い知識をもたず、その部分の質問の時にはいつも特定の人を呼んで来ることになったりして……

館員全員が常に一定の知識と技術水準を保つことを心がけなければ、ユーザーに満足のいく指導・教育は出来ないと反省している。

「利用者教育」と一口に言っても対象および方法もさまざまである。現在わが医学部図書館の行っている利用者教育を大きく分けると、次の六ケースが考えられる。

1. 新学期のオリエンテーションにおける図書館の利用説明

2．医学部大学院１年の授業の一端として文献の検索法
3．医学部専門２年の授業の一端として文献の検索法
4．医療短大の学生の授業の一端として文献の検索法
5．図書館主催でのＣＤ－ＲＯＭ等の検索講習会
6．常時個人的に質問及び指導要望があれば行う

1．について
これは図書館を利用するさいのもっとも基本となる事、いわゆるモラル教育とも言えるもので、このときの教育がよく行き届いたかどうかで、後々の図書館でのマナー及び資料の有効利用が出来るかいなかにかかっていくと言っても過言ではない。説明者は図書館員。

2．について
医学部大学院の必修科目「情報処理概論」の中の一端として90分を図書館が担当、30分を講義、残りの60分を実習する。だいたいは１年で習得するが、都合によっては、卒業するまでに受講すればよい。

3．について
医学部専門２年の授業で公衆衛生学の内の必修科目「医療情報」で、現在の医療を行っていく上で必要な情報技術に関する知識の一端として文献の検索法を講義・実習する。年に１回180分で、その内の30分を講義に当て残りの時間を図書館で実習する。約100名いるので、２グループに分かれて来館し、４台（４種類のソフト）の端末を交替しながら実習する。講義は図書館の職員、実習指導も館員。

4．について
看護学科３年の授業で選択科目「看護特論実習」で、約80名が受講している。患者に対する看護が良く出来るようにとする研究活動の一端として、文献検索の方法論から検索実習へと進むことにより、図書館内において検索実習を行っている。講義は教官、実習指導は図書館員。

5．について
図書館主催でＣＤ－ＲＯＭ等の検索指導を行う。各講座および図書館内に案内文を出し、ユーザーと図書館員の好時期を見て行う予定だが、現状はおくれがちとなっている。説明及び指導者共に図書館員。

6．について
このことが良く行えるように検索機器類をカウンターのすぐ前方に設置した。質問及び要望に応じて、簡単な事はカウンター当番がすぐに応じられる。また時間を要する場合は、事務室内にいる館員が応じる。

現在の学生にとって、より良い情報を検索入手して利用する技術を知ることは、将来社会に出て活躍するさいの必須条件である。とくに医学部においては求められる医師像が変化しており、それにともなってその授業内容も改良されつつあると聴いている。その一例として図書館における情報検索の講義・実習指導ということが行われるようになったと思われる。この場合、単なる事務官がいわゆる講師としてふさわしいかどうか、われわれ図書館員のみならずこれにかかわる立場の人々の議論を呼ぶところだったが、しかし、図書館を利用することによって教育することが一番効果的であり、それには専門職としての司書が当たるのが一番適していると思われるに至った。現在では、多くの大学図書館で様々な形の利用者教育がおこなわれ、それなりの効果をあげてきている。

当図書館では、ニューメディア（オフライン）による情報検索の方法を取り入れて以来初めて、ユーザーに対し次のようなアンケート（表１）を行った。対象は各層からピックアップし、各講座から５名、大学院１年、専門４年、看護３年、衛生技術３年を対象者とした。

アンケートの結果については、全項目の報告は省くが、回答率は約95％と高いものであった。

二．２（表１）の検索方法の習得については、教職員層は「図書館員の個人指導」が最も多く次に「独学」、学生層は「友人から」が最も多く次が「図書館員の個人指導」であった。もっとも「授業で」が少ないのは、まだ今年度の授業が行われていない為もあるが。

二．３（表１）の図書館の検索指導については、教官層、学生層共に、「なんとかわかる」が最も多く、次が「良くわかる」であったので、職員として努力のかいがあったとうれしく思っている。

二．４（表１）マニュアルについては、「利用している：していない」の割合が教職員層は

「1：2」学生層は「1：3」であった。

二．5（表1）の検索語については、教職員層、学生層共に約75%が「自由語」を使っているとなっており、指導の際もう少しシソーラス語の意義について説明する必要があると思われる。

二．6（表1）検索結果の満足度については、図書館員の興味をひくところであったが、教職員層はかなり高いパーセンテージが出ており「80%」が最も多く「50%」以下の回答はなかった。学生層の数値にはばらつきが有り、「100～5%」となっている。

三．（表1）LANによる研究室からの利用については教職員層の約80%が必要としている。

四．（表1）CD－ROM等の検索を必要としているかについては、「必要としている」が教職員層は約90%、学生層も約80%となっている。

五．（表1）情報検索についての希望・意見については、全回答者の内約30%の回答をいただいた。

その中で最も多かったのは、「LANによる研究室からの利用」の要望であった。この事が多くのユーザーに認識されているのは、このアンケートを行う一週間前に、図書館内において業者と共催で、電話回線によるネットワーク利用の情報検索のデモンストレーションを行った為、この様な高い関心を呼んだと思われる。

新しいメカニズムを利用して自分のニーズを満たすすべを持たなかったりきずかなかったユーザーに対して、情報とのインターフェースとなれる情報機関や、図書館員の役割がいっそう大切でまた必要であると感じている。

そして、今後生涯学習の時代に対応して、社会へ出た卒業生等医療関係者に対しても、ネットワークで連結される事が考えられ、図書館は利用者教育の対象を広め発展させて行くことになるのだろうか。

（医学部分館・吉野君子）

〔表1〕

CD－ROM等情報検索に関するアンケート

所属（　　）　身分（　　）

図書館では、氾濫する膨大な情報から、早く良い情報を得る手段としてCD－ROM等の情報検索機器を設置して利用していただいておりますが、今後利用者の方々によりいっそう有効に、より良い方法で、より良い情報を得ていただく為にアンケートを計画しました。よろしくご協力をお願いいたします。（該当箇所に○をお付け下さい）

一．館内のCD－ROM等のデータベースの種類をしっていますか？
　イ．知っている　　ロ．知らない

二．館内のCD－ROM等情報検索を利用したことがありますか？
　イ．ある　ロ．ない

あると答えた人

1．最も利用しているデータベースはどれですか？
　イ．MEDLINE　ロ．ENBASE　ハ．医中誌　ニ．CURRENT CONTENTS

2．検索方法はどの方法で習得しましたか？
　イ．授業の一端として
　ロ．図書館の講習会で
　ハ．図書館員の個人指導で
　ニ．友人・先輩から
　ホ．独学で（備付マニュアル等）
　ヘ．その他（　　）

3．図書館で受けた検索指導について
　イ．良くわかる
　ロ．なんとかわかる
　ハ．あまりわからない
　ニ．全然わからない

4．備付マニュアルについて
　イ．良く利用している
　ロ．あまり利用していない

5．検索語について（MEDLINE，医中誌）
　イ．フリータ－ム（自由語）を使っている
　ロ．シソーラス（統制語）を使っている
　ハ．両方を使っている

6．自分での検索結果の満足度はどのくらいですか？（平均）
　（　　）%

三．ネットワークでの利用（LANによる研究室からの利用）の希望について
　イ．有　　ロ．無

四．現在CD－ROM等の検索を必要としていますか？
　イ．必要　　ロ．不必要

五．情報検索についての御希望・御意見があれば具体的に記入して下さい。

ご協力ありがとうございました。

図　書　館

雑誌・逐次刊行物新規購読リスト（1994年）

＊このリストには、平成４年度から新たに雑誌システムで扱うことになった逐次刊行物も含んでおります。

（本館）〔２．１．現在〕

ｂｉｔ	教養：人環
ｂｉｔ	教育：情報
第四紀研究	教養：地理
ドレスメーキング・マダムのスタイルブック	教育：家庭
演劇界	本館：学習用
月刊日本語	人文：国文
月刊しにか	人文：人類
月刊しにか	教育：国語
現代と教育	教育：体育
浦東開発	経済：共通
インターフェース	教養：人環
情報処理	教育：実践Ｃｅ
情報処理学会論文誌	教育：実践Ｃｅ
華夏考古	人文：考古
憲法問題	教育：法律
行動療法研究	教育：養護
考古学ジャーナル	本部：埋蔵文化
みんなのスポーツ	教育：体育
南方文物	人文：考古
日中文化研究	人文：人類
日本語学	教養：日本語
日本グループ・ダイナミックス学会発表論文集	教育：心理
日本心理学会大会発表論文集	教育：心理
日本特殊教育学会大会発表論文集	教育：養護
労働法令通信	経済：共通

最高裁判所刑事判例集	教養：法学
最高裁判所民事判例集	教養：法学
生体の科学	理学：生物
新聞研究	経済：共通
新聞協会報	経済：共通
都市問題研究	教育：家庭
通産研究レビュー	経済：共通
ＵＮＩＸ　Ｍａｇａｚｉｎｅ	教養：人環
ＵＮＩＸ　Ｍａｇａｚｉｎｅ	教育：情報
ＵＮＩＸ　Ｕｓｅｒ	教養：人環
ユーラシア研究	人文：西洋史
Africa und Ubersee.	人文：言語
Analytical Abstracts.	理学：化学
Anthropological Linguistics.	人文：言語
Archiv fur Protistenkunde.	教育：生物
British Journal of Aesthetics.	教育：音楽
Bulletin of the School of Oriental and African Studies.	人文：言語
Compensation and Benefits Review.	経済：共通
Dacia. Nouvelle Serie.	人文：考古
Experimental Brain Research.	農学：生理
Francais Moderne.	人文：仏文
Harvard Law Review.	教養：法学
IEEE Transactions on Neural Networks.	教育：実践Ｃｅ
India Today.	人文：人類
Indogermanische Forschungen.	人文：言語
Journal of Afroasiatic Languages.	人文：言語
Journal of the Association for Computing Machinery.	教育：情報
Journal of Black Studies.	教養：社会
Journal of Business Law.	経済：共通

Journal of Development Economics.	経済：共通
Journal of Functional Analysis.	教養：人環
Journal of Indo-European Studies.	人文：言語
Journal of Integral Equations and Applications.	教養：人環
Journal of the International Phonetic Association.	人文：言語
Journal of Knot Theory and its Ramifications.	教育：数学
Journal of Linguistics.	人文：言語
Journal of Neuroscience.	理学：生物
Journal of Operator Theory.	教養：人環
Journal of Phonetics	人文：言語
Language of the World.	人文：言語
Lingua.	人文：言語
Linguisticae Investigationes.	人文：言語
Linguistics.	人文：言語
Metaphor and Symbolic Activity.	教育：心理
Modern Law Review.	経済：共通
NBER Working Paper Series.	経済：共通
NOWELE : North-Western European Language Evolution.	教育：英語
Nature Structural Biology.	教養：生物
Neuron.	理学：生物
Northeast African Studies.	人文：言語
October.	人文：美学
Olynpika.	教育：体育
Parkett.	人文：美学
Patterns of Prejudice.	教養：社会
Phonology.	人文：言語
Physical Review. Ser. 3. E: Statistical Physics,Plasmas,…	教育：生物
Progress in Physical Geography.	教養：地理
Studies in African Linguistics.	人文：言語

Studies in Language.	人文：言語
Studies in Science Education.	教育：地学
Synthetic Communications.	理学：化学
Tectonics.	理学：地学
Trends in Biochemical Sciences.	農学：食化
Trends in Biotechnology.	農学：食化
Veterinary Radiology.	農学：外科
Архивно－Информационный Бюллетень.	人文：西洋史
Исторический Архив.	人文：西洋史

（工学部分館）

電気学会研究資料　超電動応用電力機器	電気電子
電気化学および工業物理化学	化学
Advances in Applied Probability.	共通講座
Diamond and Related Materials.	電気電子
Journal of Applied Probability.	共通講座
Journal of Molecular Catalysis.	機械材料
Journal of Multivariate Analysis.	共通講座
Languages of Design.	知能情報
Linear Algebra and its Applications.	共通講座
Physical Review. E	共通講座
Probability Theory and Related Fields.	共通講座
Regional Studies.	社会建設
SIAM Journal on Matrix Analysis and Applications.	共通講座
Transactions of the ASME. Journal of Microelectromechanical Systems.	機械
Transportation Research. Part C.	図書分館
Urban Studies.	社会建設

本館ベスト・リーディングス　－平成４年度－

１．図書（貸出20回以上）

順位	書　　名　　等	貸出回数	前年度順位・回数
1	物理のための数学／和達三樹著　1983刊	60	9（37）
2	入門マクロ経済学（第２版）／中谷巌著　1987刊	50	2（46）
3	破戒／島崎藤村著	48	
4	布団・一兵卒／田山花袋著	41	
5	現代世界経済をとらえる／杉本昭七ほか編　1987刊（ニュー・ワールド・エコノミックス、20）	39	
6	にごりえ・たけくらべ／樋口一葉作	36	
6	日曜の地学；12：山口の地質をめぐって／山口地学会　1980刊	36	5（41）
8	微分積分学／塹江誠夫ほか著　1979刊	34	3（43）
9	日本地方地質誌；［７］：中国地方／今村外治ほか編著　1984刊	32	11（34）
10	生化学；上／ストライヤー著　1977刊	31	18（28）
10	電磁気学；１／長岡洋介著　1982刊	31	14（30）
12	固体物理学入門；上／Ｃ．キッテル著　1968刊	30	
13	最新例解原価計算（増補改訂版）／溝口一雄著	29	
13	量子力学；２／朝永振一郎著　1951刊	29	
15	スタディガイド「入門マクロ経済学」（第３版）／大竹文雄著　1993刊	28	
15	ミクロ経済学入門／西村和雄著　1986刊	28	3（43）
17	遺伝子の分子生物学；上／Ｊ．Ｄ．Ｗａｔｓｏｎほか著　1988刊	27	1（64）
17	山口県の岩石図鑑／山口地学会編　1991刊	27	
19	医科生理学展望／W.F.Ganong著　1990刊	26	6（39）
19	鉱物学／森本信男ほか著　1975刊	26	26（22）
19	生化学（第５版）／E.E.Connほか著　1988刊	26	22（25）
19	量子力学；２／中嶋貞雄著　1983刊	26	
24	ある女；上／有島武郎著	25	
24	量子力学／ディラック著　1983刊	25	
26	エレクトロニクスの基礎（新版）／霜田光一ほか著　1983刊（物理学選書；１）	24	
27	地球の資源・地表の開発／佐々木昭ほか編　1979刊（岩波講座地球科学；14）	23	
27	日本の地質／勘米良亀齢ほか編　1980刊（岩波講座地球科学；15）	23	
27	生化学；下／ストライヤー著　1977刊	23	
30	演習ＦＯＲＴＲＡＮ／榊原清著　1971刊	22	
30	ミクロ経済学／林敏彦著　1984刊	22	
32	ある女；下／有島武郎著	21	

順位	書　　名　　ほ　　か	貸出回数	前年度順位・回数
33	浮雲／二葉亭四迷作	20	
33	昆虫時計／千葉喜彦ほか著　1979刊 （行動から見た昆虫；３）	20	
33	細胞の分子生物学（第２版）；上巻／ B.Albertsほか著　1990刊	20	33（21）
33	生物時計／千葉喜彦著　1975刊	20	
33	文学部唯野教授／筒井康隆著　1990刊	20	

２．雑誌（貸出30回以上）

			平成３年度	平成２年度
順位	雑　誌　名	回　　数	順位・回数	順位・回数
1	教職課程	166	1（188）	1（112）
2	エコノミスト	109	2（81）	4（85）
3	Newton	78	3（66）	3（92）
4	Quark	61	11（37）	
5	化学	60		
6	経済セミナー	59		
7	現代化学	57		
8	週刊朝日百科　動物達の地球	56	11（37）	
8	ＱＡ	56	4（53）	6（48）
10	企業会計	54	6（52）	5（64）
11	ＡＳＣＩＩ	46	9（41）	39（13）
12	キネマ旬報	44	8（43）	13（29）
12	時事英語研究	44	17（29）	
14	太陽	42		
15	基礎ドイツ語	33		
16	科学朝日	30	17（29）	

寄贈図書　（受入順）

（本　　館）＊教官著作物コーナーにあります。

増田　正勝（経済学部教授）

　労務管理の日韓比較　佐護誉，安春植編著　有斐閣　1993

石田　成則（経済学部助教授）

　新保険学　庭田範秋編，石田成則ほか執筆　有斐閣　1993

中尾　訓生（経済学部教授）

　資本主義社会の再生産と人権観念　中尾訓生著　晃洋書房　1993

マルク・レール（経済学部講師）
Entwicklung,Organisation und Arbeitsweise regionaler Tageszeitungen in Japan.
Marc Löhr. Brockmeyer,1991(Berliner Beitrage zur sozial- und wirtschaftswissenschaftlichen Japan-Forschung;Nr.20)
友定　啓子(教育学部助教授)
幼児の笑いと発達　友定啓子著　勁草書房　1993
小倉興太郎（工学部教授）
無機化学演習　小倉興太郎著　丸善　1993　（化学教科書シリーズ）
沢　喜司郎（経済学部教授）
こんなドライバーが交通事故を起こす　沢喜司郎著　成山堂書店　1993
近藤　喬一（人文学部教授）
近藤喬一論文集　1～2　（論文をまとめて合冊・製本したもの）
堂面　春雄（名誉教授）
台所で物理しよう　堂面春雄著　日本図書刊行会　1993　（公開講座のテキストまとめ）
和田　敏英（人文学部教授）
スウィフトの詩　和田敏英著　九州大学出版会　1993
関　　一雄（人文学部教授）
平安時代和文語の研究　関一雄著　笠間書院　1993　（笠間叢書；256）
山本　真弓（人文学部講師）
ネパール人の暮らしと政治　山本真弓著　中央公論社　1993（中公新書；1153）
佐々木　衛（人文学部助教授）
中国民衆の社会と秩序　佐々木衛著　東方書店　1993
山本　真弓（人文学部講師）
写真集インド紀行　B．アショク写真，山本真弓解説　柘植書房　1993
ルドォルフ・プロット（教養部外国人教師）
自分への道　ルドォルフ・プロット著　パロル舎　1993
（工学部）
三池　秀敏（工学部教授）
パソコンによる動画像処理　三池秀敏，古賀和利編著　森北出版　1993

人事異動

［併　　任］	（平成５年11月１日）	岸　田　令　次	医学部分館長
［併任解除］	（平成５年11月１日）	福　本　哲　夫	（医学部分館長）
［昇　　任］	（平成６年１月１日）	吉　野　君　子	医学部分館運用係長（医学部分館運用係から）
［配 置 換］	（平成６年１月１日）	吉　光　紀　行	情報管理課受入係長（医学部分館運用係長から）
［採　　用］	（平成６年２月１日）	福　島　みゆき	情報サービス課運用係
［退　　職］	（平成５年12月31日）	山　本　弥　生	（情報管理課受入係長）
	（平成６年１月31日）	石　川　和　美	（情報サービス課運用係）

日　誌（平成５年８月～６年１月）

〔本館〕

８月５日㈭～６日㈮	目録システム講習会：地域講習会（岡山大）．岡田（講師として）
９月14日㈫	山東大学学術交流代表団・見学のため来館．（山東大関係者７名）
９月20日㈪～21日㈫	ILLシステム講習会・参加（学術情報センター）．松本美智子
９月21日㈫～22日㈬	第８回国立大学図書館協議会シンポジウム（神戸大）・参加．井関、吉光
９月24日㈮	施設見学のため来館．防府高校ＰＴＡ70名
10月27日㈬	第34会中国四国地区大学図書館研究集会・参加（高知共済会館）．
～28日㈭	安田、松本（美）、（医）渡部、（工）三浦
10月27日㈬	図書館ネットワーク研修会（宇部市立図）・参加．恩知、堂迫、（医）吉光
11月５日㈮	（中国）曲阜師範大学代表団来館（６名）
１月19日㈬～20日㈭	平成５年度国立大学附属図書館事務部長会議（横浜）
１月27日㈭	附属図書館運営委員会
１月28日㈮	本館図書委員会

［医学部分館］

８月５日㈭	医学部分館図書委員会
11月25日㈭～26日㈮	日本医学図書館協会中国四国部会総会（徳島）
12月６日㈪～７日㈫	ILLシステム講習会・参加．　高田

［工学部分館］

10月18日㈪	図書・研究報告委員会

お知らせ

春期休館日のお知らせ（本館）

館内整理作業のため次の期間図書等の貸出・閲覧を停止しますのでご了承下さい。

1994年３月23日（水）～３月31日（木）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　☎（0839)22－6111　内線788